

4: 急性リンパ性白血病(ALL)【成人】

1. WGメンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 城 友泰	京都大学医学部附属病院	血液内科
今井 陽俊	札幌フジクリニック	血液内科
小澤 幸泰	地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院	血液内科
賀古 真一	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
川瀬 孝和	藤田医科大学	国際再生医療センター 免疫再生医学研究部門
田中 淳司	済生会加須病院	
西脇 聡史	名古屋大学医学部附属病院	先端医療・臨床研究支援センター
藤澤 信	公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター	血液内科
古川 達雄	長岡赤十字病院	血液内科
水田 秀一	金沢医科大学病院	血液・リウマチ膠原病科
山本 久史	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
吉原 哲	兵庫医科大学病院	血液内科
長藤 宏司	久留米大学病院	血液・腫瘍内科
重松 明男	札幌北榆病院	内科・血液内科
三橋 健次郎	さいたま赤十字病院	血液内科
青木 淳	国際医療研究センター病院	血液内科
立花 崇孝	横浜市立大学附属病院	血液・リウマチ・感染症内科
篠原 明仁	東京女子医科大学病院	血液内科
新井 康之	京都大学医学部附属病院	血液内科
清水 啓明	地方独立行政法人 東京都立病院機構 がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科
鶴飼 知嵩	愛知県がんセンター研究所	遺伝子医療研究部
平林 茂樹	九州大学大学院医学研究院	プレシジョン医療学分野
本橋 賢治	(地・独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	血液・腫瘍内科(腫瘍)
近藤 忠一	神戸市立医療センター中央市民病院	血液内科
赤星 佑	国立がん研究センター中央病院	造血幹細胞移植科
名島 悠峰	地方独立行政法人 東京都立病院機構 がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科
原田 介斗	東海大学医学部附属病院	血液腫瘍内科
海渡 智史	東京大学医科学研究所	幹細胞治療研究センター 幹細胞分子医学分野
景山 康生	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
黒澤 修兵	がん・感染症センター都立駒込病院	輸血・細胞治療科

小西 義延	京都大学医学部附属病院	血液内科
大嶋 慎一郎	京都大学医学部附属病院	血液内科
辻 紀章	金沢大学附属病院	血液内科
堺田 恵美子	千葉大学医学部附属病院	血液内科
森田 真梨	京都大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科学
永田 啓人	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院	血液腫瘍科
大西 康	東北大学病院	血液内科
葉名尻 良	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
岩崎 惇	京都大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科学
林 裕美	国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター	血液内科
田村 直紀	地方独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院	血液内科
上條 公守	地方独立行政法人 りんくう総合医療センター	血液内科
上田 智朗	大阪大学大学院医学系研究科	血液・腫瘍内科学
下茂 雅俊	九州大学医学部	第一内科 病態修復内科学
千葉 晶輝	東京大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
吉藤 康太	東京科学大学病院	血液内科
大津 雅広	九州大学病院	血液腫瘍心血管内科
赤荻 杏奈	京都大学医学部附属病院	血液内科
高野 昂佑	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
田地 規朗	防衛医科大学校病院	血液内科
新藤 隆英	慶應義塾大学病院	血液内科
中村 直和	京都大学医学部附属病院	血液内科
泉 陽彦	横浜市立大学附属病院	血液・リウマチ・感染症内科
岡山 裕介	若草第一病院	血液内科
加藤 章一郎	防衛医科大学校病院	血液内科
山田 裕太	東京大学医科学研究所	幹細胞分子医学分野
青木 一成	京都大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科学
岡田 慎理	京都大学医学研究科	血液内科学
島 隆宏	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
土井 究	京都大学医学部附属病院	血液内科
久林 正斗	りんくう総合医療センター	血液内科
和田 典也	京都大学医学部附属病院	血液内科
芦田 郷夢	大阪公立大学医学部附属病院	血液内科・造血細胞移植科
北村 愛花	慶應義塾大学病院	血液内科
篠原 早紀	愛知医科大学病院	血液内科
羽田 美沙祈	京都大学医学部附属病院	血液内科

2. 会議開催記録(2025年1月-12月)

日時	場所	会議内容
開催なし		

3. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2025年12月末時点まで)

(1796)回

4. WGの今後の活動方針・抱負など

成人 ALL-WG では、多数症例を有するレジストリを活用して、リアルワールドデータの発信を目指して活動しております。2025年度は新たに10名の先生に参加いただきました。今後は、より多くの先生方が研究に関わりやすいよう、工夫を行っていきたいと考えております。ALLは細胞療法、標的薬剤が登場し、移植方法にも選択肢が増えています。それが故に様々な視点での検討が求められています。ご興味をお持ちの先生方は、是非本ワーキンググループに参加いただき、成人 ALL に対する移植治療の最適化を目指して、ともに研究を進めて行ければ幸いです。